

幸手を元気に！

住みたくなるまちづくりへ

Vol.6 令和2年10月発行



令和2年9月 幸手市議会一般質問から

1 次期公共交通について

Q.

質問：

木村純夫市長は昨年11月、所信表明をした。その中で、デマンドバスは市民の意見を参考に見直すとしていた。その後、市は今年の3月に公共交通アンケートを実施した。その結果、市民が望む公共交通は、循環バス73.9%、デマンドバス11.9%という内容であった。そこで市長に伺います。循環バスはいつから運行させるのか。

A.

市長答弁：

循環バスを軸とした次期公共交通を導入するには、路線の決定や業者選定、国への路線認可の申請など様々な手続きが必要である。このような多くの手順を踏む必要があるため、次期公共交通の導入は、令和4年1月であれば運行可能と見込んでいる。



市長答弁を聞いて、坂本達夫の意見

令和4年1月の運行開始は遅い。市長就任以来2年が過ぎてしまう。市民が望む循環バスを1日でも早く運行させていただきたい。



2 中落悪水路の水を葛西用水路へ放流することについて

Q.

質問:

大雨が降ったとき、中落悪水路の水を葛西用水路へ放流することが出来れば、中落悪水路の水位は下がり、中5丁目付近の洪水を防ぐことが出来る。市は洪水から市民の生活を守るために具体策を検討すべきと考えるが、市の方針を伺う。



A.

建設経済部長答弁:

葛西用水路に近い下川崎地区などから葛西用水路へ雨水を一時的に放流することが可能であるか検討を進めたいと考えております。

現在、下川崎地区の水路の高さや構造、地形などを調べている段階でございます。今後、降雨時に水の流れの方向、流速、水位などを調査し、どこから、どのような方法で葛西用水路への放流が可能であるか検証してまいります。

部長答弁を聞いて、坂本達夫の意見

葛西用水路を管理する葛西用水路土地改良区も、災害防止のための一時的な放流は受け入れてくれるとの発言もある。市は洪水から市民の生活を守るため、早期に中落悪水路の水を葛西用水路への放流を実現させていただきたい。

多くの市民から署名を頂いた西分署問題について（報告）



皆様の署名が力となり、令和2年5月、東部消防組合から西分署の「救急ステーション化案(救急車存続)」が提示されました。幸手市はこの案を受け入れ、8月18日に行われた東部消防組合正副管理者会議で、木村市長は幸手市の意向を伝え、承認されました。

この結果、西分署は令和3年4月から救急ステーションとして存続します。

役職等

- ・幸手市体育協会会長倉支部役員
- ・長倉小学校応援団員
- ・埼玉県地球温暖化防止活動推進員
- ・中川崎保全組合会員
- ・幸手市民環境ネット役員
- ・中川崎共楽会役員

プロフィール

昭和28年幸手生まれ
幸手小、幸手中、幸手商業高卒業
昭和47年埼玉県庁入庁
昭和50年埼玉大学経済短大卒業(夜間)
平成26年埼玉県庁退職
平成27年幸手市議選得票数 748票
平成31年幸手市議選得票数 1402票
(初当選)



坂本達夫

〒340-0163
埼玉県幸手市中川崎1-3
電話: 090-1242-0867
メール: sattegenki@gmail.com
ホームページ: sattegenki.com